

経済学研究科 2019年3月 自己点検・評価報告

4 教育課程・学習内容 (1) 現状の説明

経済学研究科の具体的には、以下のような能力（ラーニング・アウトカムズ）を有する人材を育成することをディプロマ・ポリシーとしている。

1. 先端的理論や実証的研究を通じて、複雑な経済・経営問題に取り組む力を持った人材。
2. 語学能力に優れ、異文化への理解力を培った国際競争力をもつ人材。
3. 最先端の学問修得を第一義に、独創的な解決方途を見出す専門能力を持った人材。

上記を目標として、以下の要件を満たしたものに以下の学位を与えるものとする。

またディプロマ・ポリシーで掲げた人材を育成するために、本研究科では以下の点をカリキュラム・ポリシーとしている。

1. 取り組む研究対象により、経済学専修・経営学専修そして英語のみで授業を行う国際経営学専修（IBSP）の三つのコースを設定した。
2. 修士1年次では、専門的な課題の解明に必要な視点を養えるよう、3つのコースに共通の基本的な科目を選択必修とした。
3. 各専修において、関係領域の専門課題を十分に研究できるよう選択科目を配置した。
4. 博士後期課程では、チームティーチングが可能となるよう、配当科目を設置した。

[\(https://www.soka.ac.jp/department/policy/bunkei/economy/\)](https://www.soka.ac.jp/department/policy/bunkei/economy/)

4-1 学位論文審査基準（経済学研究科）

4-1-1 修士論文ないしリサーチ・ペーパーの審査基準、評価方法、審査体制

審査基準と評価方法

- (1) 修士論文ないしリサーチ・ペーパーでは、テーマ並びに研究方法の適切性、先行研究との関連付け、独創性への努力、結論の論理性、論文構成の明瞭性と一貫性を審査基準として考慮する。なお、規定文字数など要求された形式で正しく書かれていなければならない。

※ 修士論文の規定文字の基準数は、日本語で 40,000 字以上、英語で 12,000 語程度である。また、リサーチ・ペーパーの規定文字数は、日本語で 20,000 字以上、英語で 6,000 語程度である。

- (2) 修士論文ないしリサーチ・ペーパーの評価は、それぞれの評価項目、基準に基づいて行われ、可否の評定規準は、70 点以上を合格、69 点以下を不合格とする。以下に評価基準表を示す。

大学院「課題研究」（修士論文）評価基準

大学院「課題研究」（修士論文）評価基準

規 準 項 目	達 成 度	評 価 指 標
1. 研究の問い	10	研究の問いは質が高く且つ明確に述べられ、熟密な実証又は文献研究ができており、すべての問いが答えられている。
	9	研究の問いは明確に述べられ、実証又は文献研究ができており、すべての問いが答えられている。
	8	研究の問いは明確に述べられ、大部分が実証又は文献研究ができ、大部分が答えられている。
	7	研究の問いは述べられ、部分的に実証又は文献研究がなされ部分的に答えられている。
	6	研究の問いは明確に述べられていない、調査がなされておらず、問いに答えられていない。
	2. 背景と正当化	20
18		充分な先行研究が参照され、既存の研究の問題点を指摘でき、主題は正当化されている。
16		充分な先行研究が参照されているが、既存の研究の問題点の指摘及び主題の正当化には、不十分な箇所がある。
14		先行研究を集めることにはおぼつかない、その分析は機械的で列挙的である。既存の研究の問題点の指摘は不透明か不明瞭である。
12		先行研究の参照が非常に少ない、その領域の理解が低い。既存の研究の問題点が指摘されていないか述べられていない。
3. 目的と目標	10	目的は、明確かつ簡潔に書かれている。目的は、目標に細分され詳述される。目標は、明確に目的に関連している。
	9	目的は、明確に書かれている。目的は、目標に細分している。目標は、目的に関連している。
	8	目的は書かれ、目標が細分している。しかし、目的と目標の関連に不明瞭な箇所がある。
	7	目的は不明瞭である。目標の細分は十分ではない、それらはほんの一部が目的に関連している。
	6	目的が、関連しているが明確ではない。目標が関連しているか、目的と関連が不明。
	4. 研究方法、分析	10
9		使用される研究方法、分析が、研究目的に照らして的確である。
8		使用される研究方法、分析が研究目的に照らしておおむね的確である。
7		使用される研究方法、分析が研究目的に照らして一部不確かな箇所がある。
6		使用される研究方法、分析が研究目的に照らして不確実である。
5. 論理性、科学性		20
	18	章立てを含めた論述の流れが適切であり、得られた成果及び考察の論理的解釈が明確で科学性が適切である。
	16	論述の流れに一部不明瞭な箇所があり、得られた成果及び考察の論理的解釈や科学性が不明瞭な箇所がある。
	14	論述の流れに不明瞭な箇所が多くあり、得られた成果及び考察の論理的解釈や科学性が部分的に不明瞭である。
	12	論述の流れが、不明瞭であり、得られた成果の論理的解釈や成果の科学性が不明瞭である。
6. 独創性、創造性、 将来性	10	優れて創造的・独創的であり、将来性とともに創造的な貢献をする可能性がある。
	9	創造的・独創的な要素が数多くあり、将来性とともに創造的な貢献をする可能性がある。
	8	創造的・独創的な要素がいくつかあり、創造的な貢献をする可能性がある。
	7	創造的な貢献をする可能性は少なく、創造的・独創的な要素は見られない。
	6	提案は平凡で、創造的な貢献はほとんどなく単純な研究結果を述べている。
	7. 言語と形式 綴り、段落 文法、文の構造、 フォーマット、 レイアウト、文字数	10
9		文章の記述において重要な間違いが存在せず、要求された形式で正しく書かれている。
8		文章の記述において、いくつかの間違いがある。正しい形式で書かれているが、形式上の間違いがいくつかある。
7		文章の記述において、重要ないくつかの間違いがある。形式にいくつかの逸脱がある。
6		文章記述に関する間違いは、重大で多くある。形式の多くの箇所が間違っている。
8. 参考文献、 引用文献、 図、表	10	参考・引用文献の質が高く、適切に参照されている。適切で一貫した書式である。
	9	参考・引用文献は、適切に参照されているが、論文の数が十分でない。書式は適切である。
	8	参考・引用文献は参照されているが、文献のいくつかのものを外れている。書式に適切ではない箇所がある。
	7	参考・引用文献は参照されているが、全体的に質が低く重要な文献が的外れされている。書式は適切でない箇所が目立つ。
	6	参考・引用文献は十分に参照されておらず、適切ではない。書式も適切ではない。

☆修士論文の可否の評定規準は、70点以上を合格、69点以下を不合格とする。

大学院「課題研究」（リサーチ・ペーパー）評価基準

1. 専門分野の基礎的な知識の修得

スコア	評価基準
20	対象となる分野のトピックにおいて基礎的な概念また発展的な概念を一貫して用いている。
17	対象となる分野のトピックにおいて基礎的な概念またやや発展的な概念を頻繁に用いている。
14	対象となる分野のトピックにおいて基礎的な概念をある程度用いている。
11	対象となる分野のトピックにおいて基礎的な概念を用いていない。

2. 当該分野の研究資料にアクセスし、情報を統合して、現状における知識を俯瞰する能力。当該分野の刊行論文の意味・価値・貢献を批判的に評価することができる。

スコア	評価基準
20	当該分野の現状における研究資料を理解し、的確に用いることができる。
17	当該分野の現状における研究資料を理解し、関連付けることができる。
14	当該分野の現状における研究資料を見出すことができる。
11	当該分野の現状における研究資料にアクセスできていない。

3. 着想のオリジナリティ

スコア	評価基準
10	研究の問題意識や目的は、独自のまたは創造的である。研究計画や手法は、適切であり革新的である。
9	(研究は最低限度の獨創性や創造性を備えているが、卓越したレベルではない。)
7	研究の問題意識や目的は、最低限の獨創性また創造性を備えている。研究計画や手法について、最低限度の適切さや革新性を備えている。
6	研究の問題意識や目的は、獨創性や創造性を欠いている。先行研究の複製にすぎない。

4. データ(資料)を適切に収集し分析する能力

スコア	評価基準
20	データの解釈は適切であり、正しい手法を獨創的に用いている。解釈は、研究目的に対して的確である。
17	データの解釈は適切であり、多くの正しい手法を用いている。解釈は、研究目的に対して概ね的確である。
14	データの解釈は適切であり、いくつかの正しい手法を用いている。解釈は、研究目的に対して的確ではない。
11	データの解釈は適切であるが、誤った手法を用いている。また解釈は、研究目的に対して的確ではない。

5. 論理性・科学性

スコア	評価基準
20	議論は優れており、正確で、魅力的である。結論・先行研究の要約は、研究結果に基づいた明らかな内容であり、適切である。
17	議論は十分であり、ほとんど過ちがない。過去の研究に基づいた、より強固な基盤が必要である。結論・先行研究の要約は、研究結果に基づいた内容であり、適切である。
14	大事な議論が抜け落ちているか、正確ではない。考慮すべき関連事項の議論が抜け落ちている。結論・先行研究の要約は、完全には研究結果に基づいていない。
11	この研究から得られた結果について、ほとんど論じられていない。本質的ではない議論が提示されている。結論・先行研究の要約は、研究結果に基づいた内容ではない。

6. 言語と形式

スコア	評価基準
10	文章・構成は整っており、単語のスペルや文法上の誤りが存在しない。明確で説得力のある議論がなされている。結果の提示の仕方が洗練されている。
9	(言語・形式において最低限の基準を満たしているが、卓越したレベルではない。)
7	文章や構成は概ね明確であり、単語のスペルや文法で大きな過ちがない。議論は明確である。結果の提示の仕方は大学院レベルである。文章の記述において、いくつかの間違ひがある。
6	文章や構成がわかりにくく、単語のスペルや文法で間違ひが目立つ。議論に説得力がない。文章の記述において、重大な間違ひがある。

☆修士論文の可否の評定規準は、70点以上を合格、69点以下を不合格とする。

審査体制

(1) 修士論文ないしリサーチ・ペーパーについては、公開の場で、中間報告ならびに最終報告が行われなければならない。最終報告では、面接試験があり、これに合格しなければならない。

(2) 審査委員の体制として、修士論文については3名の教員（主査1名、副査2名）が、リサーチ・ペーパーについては2名の教員（主査1名・副査1名）が論文審査、面接試験を行う。

4-1-2 博士論文の審査基準、評価方法、審査体制

評価基準と評価方法

(1) 博士論文の審査においても、前述の修士論文の審査基準は適用される。ただし博士論文の規定文字数は、120,000字以上である。欧文の場合は、A4版用紙で1ページ約350語として、100ページ以上である。

(2) 上記の形式的要件を満たした上で、当該学問分野において研究を発展させるに足る知見（学術的価値）が見出せること、また、申請者が近い将来、自立した研究者として当該分野の中で活躍していく能力および学識が認められること、さらに、建学精神にもとづく学究者として、深い責任感と高い倫理観に基づく社会的行動ができること、が期待される。

このため、最低でも次の**3つの条件**を満たさなければならない。

- ① 大学院で研究指導を受けた教員からの推薦
- ② 日本経済学会連合に所属する研究学会での報告もしくは国際的に認められた研究機関で報告
- ③ 査読付き研究学会誌での受理

審査体制

執筆した博士論文について、3名の教員（主査1名、副査2名）による語学力確認も含む口頭試問が実施され、これに合格しなければならない。

4-2 教育課程の編成と実施方針

4-2-1 領域/研究・教育の内容

経済学研究科は3つの専修課程からなる。(1) 経済専修、(2) 経営学専修、(3) 国際ビジネス専修(IBSP: International Business Studies Program)である。

(1) **経済学専修**の専門科目は4部門で構成される。①理論経済学・計量経済学部門（金融経済論特論、時系列分析特論、ファイナンス理論、計量ファイナンス）。②応用経済学部門（財政学、日本経済論、生活経済学）。③経済史部門（日本経済史、近代日本経済史、

西洋経済史、比較経済史)。④グローバル経済部門（開発経済学、アフリカ経済論、アジア経済論、国際貿易論）。またコア科目として、ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学、経済史、グローバル経済、準コア科目として、史料講読がある。

(2) **経営学専修**の専門科目としては、先ずコア科目として経営学、経営史、会計学、経営統計、情報統計を学び、さらに専門科目として設置してある経営戦略論、国際経営戦略、ビジネス・エコノミクス、人的資源管理論、財務会計、管理会計、財務管理論が配置されている。

(3) **国際ビジネス専修 (IBSP)** は経済・経営のグローバル化に対応すべく開設された専修であり、主に外国人学生を対象としている **English Medium Program** である。専門科目の講義はすべて英語で行われる。会計・財務分野、マネジメント・経営戦略分野、国際ビジネス・経済学分野の3分野で構成される。また選択必修科目として、ビジネス経済学、経営統計、会計学がある。学生は自らの関心と目的に沿って科目を履修することができる。

各専修のカリキュラムの詳細については以下を参照されたい。

<https://www.soka.ac.jp/grad-let/major/economics/curriculum/view/>

4-3 教育方法/指導

経済学研究科では、経済社会のグローバル化と ICT 化に対応すべく教育課程の改革を行ってきた。特に留意した点は、1つは学生を広く世界から募り、教育する体制を整えること、2つは学生の問題意識を尊重し、研究条件など魅力ある柔軟な制度であること、3つには教育を組織的に行い標準修業年限以内に学位の授与が出来るようにすることである。

具体的には①入学後の研究科別ガイダンスの際に、それぞれの学生についてアドバイザーを決定し、履修などの相談・指導を行う。学位論文作成の指導は、「修士論文研究指導」「リサーチペーパー作成指導」の担当教員が行う。その際に、担当教員がアドバイザーを引き継ぐ。②経済学や経営学の基礎・方法論的な科目を早い時期に学習し、その上で学生が主体的により高度な専門科目を学ぶことができるようにカリキュラムを編成するとともに、企業就職を視野に入れたインターシップを単位科目として導入した。③在籍しながら他大学や外国の大学院（もしくは高等教育機関）で修得した単位や海外での調査研究について一定限度内で、本研究科における修得単位として認定する。④修士論文作成とリサーチペーパー作成の2つのコースの中から選択できるようにした。

後期課程では、最初の1年間、博士論文のテーマに沿って指導教授を含む複数の教授から研究指導を受ける。2年次と3年次では引き続き指導教授等の指導を受けながら、国内外の学術会議への積極的な参加・発表と学術誌への投稿を促すとともに、標準修業年限内に学位請求論文が提出できるように留意している。

修士・博士課程を問わず、国内外の学術会議への参加、発表、また査読論文の出版につ

いては、大学から旅費等の助成金制度があり、近年、積極的に応募する学生が増えている。

また、学生が2年間で学位論文を作成・提出するよう、以下のように研究計画書の提出、また2年次に公開発表（修了予定者全員必須）を課している。

	春学期入学生の場合 (経済学専修・経営学専修)		秋学期入学生の場合 (国際ビジネス専修)
	修士論文	リサーチペーパー	リサーチペーパー
論文題目・研究計画書の提出	2年次の6月末	2年次の9月末	2年次の3月末
学位論文の提出	2年次の1月上旬	2年次の1月上旬	2年次6月末

4-4 成績評価基準の改正

2019年度までは、大学院博士前期・修士課程／博士後期課程の成績評価は、4段階「A,B,C,D」で行われていた。A評価は100点～80点、B評価は79点～70点、C評価は69点～60点と各評価の換算基準の点数幅が広く設定されていた。特にA評価は、同一評価の中で20点もの開きがあり、不公平感（100点でも80点でも同じ評価）が否めない状況にある。一方、学部では今年度より6段階評価「S～E」から12段階評価「A+～E」へと、さらに細分化されており、合格評価「A+～D」の基準点数の幅が縮められている。本研究科でも成績評価の細分化を採用し2020年度生以降は以下のような成績評価基準を適用する。

方法	評価	基準点数	GP	合否	内容	
ABC 評価	A+	100～95	4.0	合格	特に優れている	
	A	94～90	4.0		優れている	
	A-	89～85	3.7		良好	
	B+	84～80	3.3			
	B	79～75	3.0			
	B-	74～70	2.7		科目の要求を一応満たしている	
	C+	69～65	2.3			
	C	64～60	2.0			
	D	59～0	0.0	不合格	合格水準を満たさない	
N	評価不能	0.0		(注)		
PF 評価	P	合格	対象外	合格	科目の合格水準を満たしている	
	F	不合格		不合格	科目の合格水準を満たしていない	
単位認定	R	認定		合格	学外等での学修を本学の単位として認定する。	
J	評価保留			-	インコンプリート制度による成績評価保留	
注：授業時数の3分の1を超えて欠席した場合はN評価とする。また、試験を受けなかった、レポートを提出しなかったなど成績評価をすることが不可能な場合はN評価を付けることができるものとする。						

ただし、

・大学院は60点以上が合格のため、「C」以上を合格とする。不合格「D」以下は、細分化する必要が無いため、不合格評価は「D評価」のみとする。これにより大学院は、合格

8段階「A+～C」、不合格1段階「D」の9段階評価とする。

- ・ABC評価が相応しくないと判断される科目の評価方法として「P・F」評価を導入する。
- ・2020年度4月入学生より適用する。

■留意事項

- (1) 学部同様にインコンプリート制度（成績評価の保留）を新たに導入する。
- (2) 大学院授業は少人数の場合が多いため、引き続き絶対評価を用いる。A評価の割合などの基準は設定しない。

4-5 ディプロマ・ポリシーに明示された学生の学習成果の把握・評価と教育課程の適切性に関する点検・評価。その改善・向上に向けた取組

経済学研究科は、本研究科の特徴を踏まえ、以下のような内部質保証システムの強化に取り組む。

4-5-1 アセスメント・ポリシー／プランに基づいた学習成果の測定及び可視化を推進

昨年度(2018年度)策定したアセスメント・ポリシー／プランに基づきさらにその構成を吟味し、学習成果の測定及び可視化を推進するよう努力してきた(下表)。また、その結果について点検・評価を行い、教育改善につなげるサイクルを構築することを目指す。

経済学研究科アセスメント・プラン

アセスメント項目 (ディプロマポリシー等)	アセスメント指標	学習成果の測定と可視化の取組み
先端的理論や実証的研究を通じて、複雑な経済・経営問題に取り組む力を持った人材。	<p><前期課程></p> <ul style="list-style-type: none"> ・修士論文およびリサーチペーパー（RP）中間発表会（公開）の評価 ・修士論文およびRPの評価 <p><後期課程></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術雑誌への論文掲載、および学術学会での発表。 	<p><前期課程></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリックを用いた評価 <p><後期課程></p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文掲載本数と回数、内容の評価
語学能力に優れ、異文化への理解力を培った国際競争力をもつ人材。	<p><前期課程></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学試験による語学力の判定と卒業時の英語スコア・日本語能力試験資格（JLPT） ・修士論文およびRPの中間発表会（公開）の評価 ・インターンシップの参加の評価 ・論文およびRP審査の口頭試問（最終 Semester） 	<p><前期課程></p> <ul style="list-style-type: none"> ・TOEFL・TOEICのスコア、日本語能力試験（JLPT） ・ルーブリックを用いた評価 ・インターンシップの報告書の作成と報告会の開催

	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人学生の日本語/英語による論文作成 ＜後期課程＞ ・特に海外の学会での発表（随時） ・学術雑誌への論文掲載、および学会での発表。その本数と回数、内容の評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・主査・副査によるルーブリックを用いた評価 ＜後期課程＞ ・発表論文リストの作成 ・発表学会と発表タイトルのリストの作成
最先端の学問修得を第一義に、独創的な解決方法を見出す専門能力を持った人材。	<ul style="list-style-type: none"> ＜前期課程＞ ・修士論文および RP（2 年次後期） ＜後期課程＞ ・学術雑誌への論文掲載、および学会での発表（随時） 	<ul style="list-style-type: none"> ＜前期課程＞ ・ルーブリックを用いた評価 ＜後期課程＞ 発表論文リストの作成 ・発表学会と発表タイトルのリストの作成
その他、(カリキュラム、講義に関する学生評価)	セメスター終了時、課程修了時アンケートの実施	アンケートをもとにカリキュラム、学修・研究指導の改善

4-5-2 効果が上がった事項

- ・IBSP 学生の 9 月入学時のガイダンスで、履修相談や学修・研究上の色々な相談に応ずるアドバイザーをそれぞれの学生に付け、学生にアドバイザーの連絡先・研究室一覧を配布した。これによって学生は最初のセメスターをスムーズにスタートできたと思われる
- ・希望者は日日センターの日本語のコースも参加できるようになったこと。
- ・博士課程の学生が各所属学会で「補助金申請」制度を活用して発表。
- ・「研究奨励金」制度を活用した査読付学術雑誌への寄稿と採択の増加

【2018 年度学会発表補助金申請支払実績】

	学籍番号	氏名	学会名	会議名	発表テーマ	日時	開催地
1			アジア経営学会	第 25 回全国大会	インドにおける医療観光事業の現状と課題	2018/9/16 (日) ~ 9/17 (月)	同志社大学・今出川キャンパス

2			アジア政 経学会	2018 年度 秋季 大会	ネパールにおける貧困 解決策としての「手漉き 紙 BOP ビジネス・モデ ル」の構築	2018/11 /24 (土)	新潟 大学 五十 嵐キ ャン パス
3			国際開発 学会	第29 回全 国大 会	ブラジルから見た ProSAVANA(モザンビ ーク熱帯サバンナ農業 開発のための3か国協 力プログラム)の実施に おける課題	2018/11 /23 (金) ～ 11/24 (土)	筑波 大学 筑波 キャン パス

【2019年度学会発表補助金申請支払実績】

No.	学籍 番号	氏名	学会名	会議名	発表テーマ	日時	開催地
1			Eurasia Business and Economic Society	28th EBES Cinference	Role of INGO in Livelihood Improvement : Case Study of Community Action Nepal	2019 /5/29 - 2019 /5/31	Covent y Univer sity, UK
2			The Nordic Society for Philosophy of Religion (NSPR)	Wings of Desire The Limits and Potentialities of Imagination within the Philosophy of Religion	A Study on the Conditions and Cultural Artefacts of Peaceful vs. Violent Religious Neighbourship in an Indonesian Political Context	2019 /6/13 - 2019 /6/15	Aarhus Univer sity, Denma rk
3			日本経営 学会	日本経営学 会第93回 大会	Study on Performance and Challenges of Public Private Partnership (PPP) Projects in India	2019 /9/3- 2019 /9/6	関西大 学千里 山キャン パス
4			JAPAN FORUM OF BUSINESS AND SOCIETY	9th Annual Conference	CSR Management Practice in an Asian Developing Countries : Indonesian Case	2019 /9/5- 2019 /9/6	早稲田 大学

5			アジア経営学会	アジア経営学会第26回全国大会	インドにおける官民連携事業（PPP）の現状と課題—インディラ・ガンディー国際空港を例にして—	2019/9/15 - 2019/9/16	小樽商科大学
6			The International Institute of Knowledge Management	6th INTERNATIONAL CONFERENCE ON POVERTY AND SUSTAINABLE DEVELOPMENT 2019	ROLE OF QUALITY EDUCATION IN PORVERTY REDUCTION: INDIA	2019/12/5 - 2019/12/6	Hotel Taj Samudra, Sri Lanka

2019年度研究奨励金実績（経済学研究科）

No	学籍番号	氏名	書籍・論文等のタイトル	掲載誌名	掲載号数	出版年月等
1			Poultry Price and Market Analysis in the South West Region of Cameroon	Journal of Food Security	Vol.6	2018/5/4
2			A Study of Revenue Management of Tirumala Tirupati Devasthanam : Management Control of Religious Trust in India	THE GAZE JOURNAL OF TOURISM AND HOSPITALITY	Vol.11	2019/12/9
3			BRAZILIAN AGRIBUSINESS IN MOZAMBIQUE: THE PROSAVANA PROGRAMME CASE STUDY	REVISTA NERA	Vol.23, No.51	2020/1/12

4-5-3 改善点ならびに課題

IBSP では昨年度初めて修了生を送り出したが、いくつかの改善すべき点が指摘され、対応した。

1) リサーチ・ペーパーのスケジュールについて、アドバイザーの決定が遅い、研究計画提出時期が遅い、公開報告会が6月に設定されていたこと等の問題が明らかになった。

2019年度から学生がより円滑に準備、作成できるよう以下のように改善した。

IBSP リサーチ・ペーパー提出までのスケジュール

1. リサーチ・ペーパー指導教授の決定：第3 Semester 11月中
2. 研究計画書作成提出：第4 Semester 1月末 (←これまでは3月末)
3. 公開プレゼンテーション：第4 Semester 5月連休明けの週 (←これまでは6月始め)
4. リサーチ・ペーパーの提出：第4 Semester 6月末日
5. 最終試験 (インタビュー)：第4 Semester 7月10日-20日

2) IBSP の修了生に学生アンケート **Survey of Graduating IBSP Students** を実施した(以下に掲載)。アンケートからは (1) 経営学・経営戦略論等の科目の充実、(2) 教員の英語力の向上、(3) 講師陣の多様化〔国籍〕を図るべき、(3) 講義の内容の高度化 (特定の科目の内容が初歩的すぎる) (4) 課題の量を全般的に増やすべき (科目によって多い、少ないが極端)、(4) 創価大学らしい「人間主義」という観点から経営・経済を考察するコースを開設すべき、(5) インターンシップの充実、(6) 外国の大学院との研究・教育交流、(7) 海外研修プログラムの開設等が示唆された。これらの指摘・提案については今後、改善に努めたい。

3) 学生参加型の内部質保証体制の推進について

昨年度の全学自己点検・評価委員会において、現在の内部質保証の体制に、学生参加の要素を取り入れることが承認された。経済学研究科として、可能なところから学生代表を加えて評価分科会を行い、学生の意見を取り入れる仕組みを構築する。

(1) 研究科自己点検委員会では、以下の案が出され、実施につなげてゆく予定です。

- ① セメスター終了時の授業アンケートの実施(すでに実施済み)とその内容の検証とレスポンスを作成するとともに、授業アンケートと教員のレスポンスをもとに学生代表との意見交換会を設ける。
- ② 課程修了時におけるアンケートの実施とその内容をもとに、カリキュラム、研究指導体制の改善へと結び付ける。

(2) 実施した改善事項

- ① リサーチ・ペーパー (RP) の作成準備を早めにスタートすることを促すため、国際ビジネス専修における研究計画提出、中間報告会の開催スケジュールを以下のように変更した(2019年から実施)。

第3 Semester 11月に RP 指導教授の決定と研究計画書提出

第4 Semester 5月上旬に修士論文および RP の中間発表会 (公開) の開催

- ② 国際ビジネス専修のカリキュラムを以下のように変更した(2019年度から実施)。

・国際ビジネス専修においても「修士論文」(Master Thesis)を選択できることとした。

それに伴い、修士論文指導 I(Supervised Master Thesis I)と修士論文指導 II(Supervised

Master Thesis II)を新設した

・選択必修科目「Microeconomics」「Macroeconomics」を廃止し、代わりに「Principle of Business Economics」を新設した。これらの改善は、いずれも本専修履修の学生のアンケートと担当教員の意見をもとに導入した。

③ 上記の学生参加型の内部質保証体制の推進のために第 1 回の学生とスタッフの意見交換会を以下のように開催した。

日時：2019年7月22日（月）16時45分～

場所：本学 中央教育棟8階AE851

出席者：高木教授 小林教授 齋藤教授 栗山教授 大場准教授（教員4人）
（学生4人）

資料 <Survey of Graduating IBSP Students>

Welcome to the Survey of Graduating IBSP Students!

We would like you to participate in the survey—your responses, opinions, experiences, and recommendations will be invaluable in helping the Soka University Graduate School of Economics improve the quality of IBSP program and to help current and future students complete their degrees successfully.

We appreciate your willingness to participate. Thank you, in advance, for your time and input.

Curriculum

Q1. How satisfied are you with the curriculum (a set of courses) of the program?

1. Not at all satisfied
2. Slightly satisfied
3. Moderately satisfied
4. Very satisfied
5. Extremely satisfied

What are the good features of the curriculum?

What are the points of the curriculum to be improved?

Teaching quality

Q2. How satisfied are you with the quality of teaching in the courses you have taken?

1. Not at all satisfied
2. Slightly satisfied
3. Moderately satisfied
4. Very satisfied
5. Extremely satisfied

What is the most satisfied point with the quality of teaching in the courses you have taken?

What are the points with the quality of teaching to be improved?

Adviser

Q3. How satisfied are you with the quality of the relationship between you and your advisor?

1. Not at all satisfied
2. Slightly satisfied
3. Moderately satisfied
4. Very satisfied
5. Extremely satisfied

Q4. How satisfied are you with the guidance for writing the Research Paper received from your academic advisor and other faculty and staff?

1. Not at all satisfied
2. Slightly satisfied
3. Moderately satisfied
4. Very satisfied
5. Extremely satisfied

What is the most satisfied point with the guidance and support for writing the Research Paper?

What are the points with the guidance and support for writing the Research Paper to be improved?

Internship program

Q5. How satisfied are you with the internship program?

1. Not at all satisfied
2. Slightly satisfied
3. Moderately satisfied
4. Very satisfied
5. Extremely satisfied

What is the most satisfied point with the internship program?

What are the points with the internship program to be improved?

Q6. Overall, how satisfied are you with the International Business Studies Program?

1. Not at all satisfied
2. Slightly satisfied
3. Moderately satisfied
4. Very satisfied
5. Extremely satisfied

What are the good features of the program? Or could you comment how this program helps to advance your career?

What are the points of the program to be improved?

THANK YOU!

6. 学生の受け入れ

6-1 学生の受入れ方針

経済学研究科では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに則った教育を実現するために、以下のようなアドミッション・ポリシーに基づいて学生を受け入れている。

1. 高い専門能力を修得して、現代の経済社会問題の解決のために、様々な提案を示す意欲のある学生。
2. 外国語の能力を活用し、国際社会発展に寄与しようとする意欲のある学生。
3. 自らの学問によって、世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする意欲のある学生。

6-2 入学者選抜・学生募集・選抜体制並びに 2018 年度・2019 年度の入学者状況

6-2-1 学生募集と入学者選抜

主に大学のホームページ <https://www.soka.ac.jp/admissions/exam-info/graduate/bunkei/> に詳細を掲載し、募集している。入学者選抜については、主に書類審査と筆記試験並びに面接試験を実施している。過去の筆記試験問題についてはホームページで公開している。

外国人入試については多くが国際ビジネス専修 IBSP への応募者である。学士課程の成績、語学力 (TOEFL, IELTS 等のスコア提出)、研究計画書、推薦状等の書類審査と評価とともにインターネット音声・ビデオ通話ソフト使った二人一組の面接教員による口答試験を課して合否を決定している。

6-2-2 定員管理

定員管理については博士前期課程について 15 名前後を定員として、ほぼ充足している状況にある。2018 年度の入学者を選抜する 2017 年度に実施された学内選考試験に 2 名応募合格。いずれも、外国人で、タイからの学生 1 名が特別学内選考試験で、韓国からの学生 1 名は学内選考試験で合格し入学。学内選考、一般入試とも日本人学生の受験者はなかった。

2018 年度については、国際ビジネス専修 (IBSP) については以下のように第 I 期の入試で 4 名が受験し 3 名が入学、また第 II 期の入試では 13 名受験し、8 名の合格者のうち、7 名が入学。計 10 名 [男 3・女 7] が入学した。10 名の修士課程入学者は 8 か国に及ぶ。インド 2、ウズベクスタン 1、マレーシア 1、ブルネイ 1、インドネシア 1、フランス 1、カメルーン 1。

2019 年度の IBSP の第 I 期の選抜試験 (2019 年 9 月入学予定) には 12 名の応募があり、7 名が合格している。IBSP 第 I 期入試に出願者が 10 名を超えるのは初めてである。第 II 期入試も 15 名の応募があり、8 名が合格している。15 名が入学した。国別の内訳はインド 6、インドネシア 3、カメルーン 3、アメリカ 1、韓国 1、バングラデシュ 1。

2020 年度は、学内選考試験推薦 2 名 (中国人留学生)、特別学内選考試験 2 名 (中国人留学生) が、それぞれ合格した。また国際ビジネス研究専修 (IBSP) の第 I 期試験には 10 名の

応募があり、3名が合格している。

【①外国人学生入試Ⅰ期+一般(第Ⅱ期)】

年度	出願者	合格者	入学者
2016	6	5	4
2017	5	3	3
2018	4	3	3
2019	11	7	7
2020	10	3	

【②外国人学生入試Ⅱ期+一般入試(第Ⅲ期)】

年度	出願者	合格者	入学者
2016	18	9	9
2017	13	7	6
2018	13	8	7
2019	12	8	8
2020	募集中		

6-2-3 留学生の受入状況：修士・博士課程

現在(2020年2月)の経済学研究科における受入れ学生の多くは外国人留学生となっている。修士課程28名、博士課程5名、計33名が在籍。ほぼ修士・博士課程ともに留学生が9割7分を占める。出身国は18カ国・地域(東南アジア7カ国、東アジア3カ国、中央アジア1カ国、南アジア3カ国、アフリカ2カ国、ヨーロッパ2カ国)に上る。

大学院経済学研究科在籍学生数 2019年2月現在

博士前期(修士)課程			
入学年次	学生数	内留学生	留学生率
2018 春	4	4	100%
2018 秋	10	10	100%
2019 秋	14	14	100%
博士後期課程			
入学年次	学生数	内留学生	留学生率
2015	1	1	100%
2016	1	1	100%
2018	3	2	67%
総計	33	32	97%

6-2-4 留学生に対する教育・生活指導の体制

初年次においては、4月のガイダンスにアドバイザーを学生に付けて、履修相談、学習アドバイス、生活上の指導を行う体制を整えた。

2年次においては、従来通り、アカデミック・アドバイザーが研究指導とあわせて教育・生活指導を行う。

6-2-5 在学生の海外留学の方針と状況

研究上の必要に応じて奨励している。休暇期間において、現地に調査、データ資料収集に海外（自国）に出向くケースはある。